

J-PARC 事故の説明会

一般職員向け事故説明会開催される。

なぞは多く、 J-PARC の放射線管理センスに疑問も大きい。

5月23日に発生した原子力科学研究所構内の J-PARC ハドロン実験施設の事故では、30 数人の被ばく、外部への放射能放出が確認されています。

原研労組は、機構に説明会を要請しており、機構も近日中に行うとしていますが、6月4日、一般職員に向けた説明会が原子力科学研究所の大講堂で開催されました。

多くの職員は、マスコミ報道や、J-PARC ホームページの情報以外の情報をわずかしか持てない状態でした。自分たちの常識では理解できないことが行われたと感じており、ことの詳細や、そこに至った背景などを知りたいと思っていたでしょう。説明会では、質疑応答もあり、いくらか理解が進みましたが、多くの疑問が残りました。

疑問 1: 金ターゲット周辺の第 1 種管理区域はきちんと負圧になるようになっていなかったのか？

説明会での J-PARC の説明⇒ わからない。

この「わからない」は、本来は負圧になっているはずだが当日はどうだったか分からないということか、説明者が知らないだけなのか？

関連する疑問！ 金ターゲット周辺の構造、密封などはどうなっているのか？

疑問 2: 実験ホールの線量率が数 $\mu\text{Sv/h}$ に上がった時、重大な問題が生じたと考えなかったのか？

疑問 3: 空気汚染が懸念されたのに、排気ファン(フィルターが付いていない)を回したのはなぜか？

説明会での J-PARC の説明⇒ 排気して線量率が下がれば、空気汚染と分かるので、そうしてみようという提案があり、行った。外部に汚染を拡散させるということに思い至らなかった。今にして思えば。。。。

疑問 4: 普段から、ファンを動かすことがあったのか？

説明会での J-PARC の回答⇒ 湿気や温度の上昇時に行ったことがある。

追加疑問: これまでも線量率の上昇時にファンを回していたのではないのか？

疑問 5: 普段の運転時の線量率など、施設設計段階の評価と比べてどうなのか？

実験ホールなど第 2 種管理区域の管理は不適切ではないのか？

疑問 6: 電源の故障 (トラッキングエラー: 指令にきちんと追従しない) というが、より具体的にどういうメカニズムでそれが起きるのか？

疑問 7: 金が高温になって昇華したとの説明だったが、5mS で高温になったとすると、昇華などというのんびりしたプロセスだったとは思えない、蒸気ジェットあるいはプラズマジェットが生じるか、あるいは破裂してはいないか？

などなど、まだ疑問だらけです。

疑問、意見、要望など労組にお寄せください。労組は、先ず、事態の理解を優先し、その後、言うべきことは言っていくつもりでいます。労組主催の意見交換会なども行うつもりです。

説明会などを通じて、わかってきたことは、放射線防護に対する旧原研職員たちの感覚と高エネルギー加速器研究機構 (KEK) の方々の感覚の大きな違いです。

J-PARC は原子力機構と KEK の共同事業で、ハドロン実験施設は、主に KEK が管理していました。共同事業の在り方についても考えさせられます。

福島第 1 原発の事故があり、大きな目を見たとき、原子力機構が、我が国の原子力に対して、本来果たすべき役割を果たしてきたのか、という検証・批判はあって当然ですが、J-PARC 事故のような形で、批判されるのは情けない話です。

☆☆ 中央選挙管理委員会から ☆☆

労組役員選挙 立候補受け付け期間を延長します。

立候補締め切り 6月12日(水) /

役員立候補者が少ないため、中央選挙管理委員会は立候補受付期間を延長しました。

現在、中央執行委員に立候補を表明したのは 3 人です。原子力の将来、われわれの職場の将来、そしてわれわれの処遇: 労組の役割が重要なときです。強力な執行体制を構築しましょう。